

#人生100年時代の老後の備えと企業年金

「人生100年時代」というキーワードが定着しつつありますが、これまで経験したことのない長い高齢期に対する備えとは、どのようにイメージすればいいでしょうか。

働けるうちは働き、自分自身で公的年金の受給を決めるWPP理論

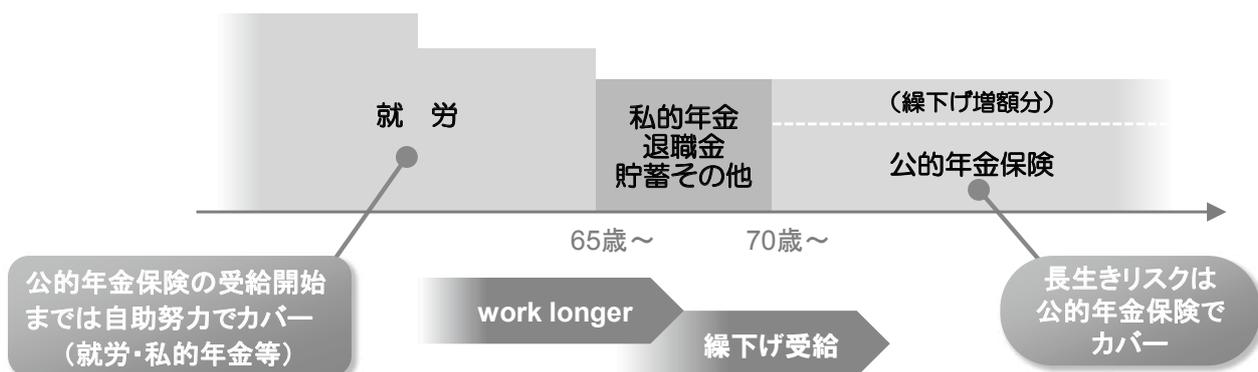
高齢期における所得確保のヒントの一つとして、**#WPP理論**という考え方があります。

Wとは「**#Work longer**」で、就労期間を延ばし**#できる限り長く働いて収入を確保する**という意味です。次のPは「**#Private pension**」で企業年金や個人年金等の私的年金や退職金などを指し、就労期間の引退から公的年金を受け始めるまでの期間を私的年金でつなぎます。そして、最後のPは「**#Public pension**」公

的年金のことで、**#なるべく支給開始年齢よりも遅く公的年金を受け取る**という考え方です（図参照）。

#70歳までの就業確保を企業の努力義務とする「改正高年齢者雇用安定法」が施行されたことや、**#老齢基礎年金・老齢厚生年金の受給開始年齢を繰り下げの際の上限年齢の引き上げ（増額の割合を増やす）**など、環境整備が進められたこともこうした考え方を後押ししています。

図●WPP理論の考え方



出典：谷内陽一「WPP シン・年金受給戦略」中央経済社、2023、p.12より抜粋

企業年金をはじめとする私的年金を拡充していくことが今後の鍵

この考え方では、就労引退から公的年金までをつなぐ私的年金が鍵となります。中でも企業年金の一つである**#確定給付企業年金（DB）**の存在は大きいと見られます。DBの多くが**#有期年金**を採用しており、かつ受給期間を複数（5年～20年）から選択できるように設計されています。また、一時金と年金の選択制にするなど柔軟な受け取り方も可能です。こうした給付が、**#事業主が全額負担する掛金**で成り立っていることも大きな特徴です。

加えて、DBに加入しながら**#iDeCo（個人型確定**

拠出年金）で掛金を積み立てるなど、老後資産を増やす選択肢も設けられています。令和6年12月からは**#iDeCo掛金の税制優遇枠が拡大する改正**も予定されています。

現在、次期制度改正の議論を続けている企業年金・個人年金部会でも、私的年金のさらなる拡充を目指して**#DB、DCの掛金の非課税限度額の引き上げ**や**#iDeCoの加入可能年齢の延長**などの検討が進められているところです。